

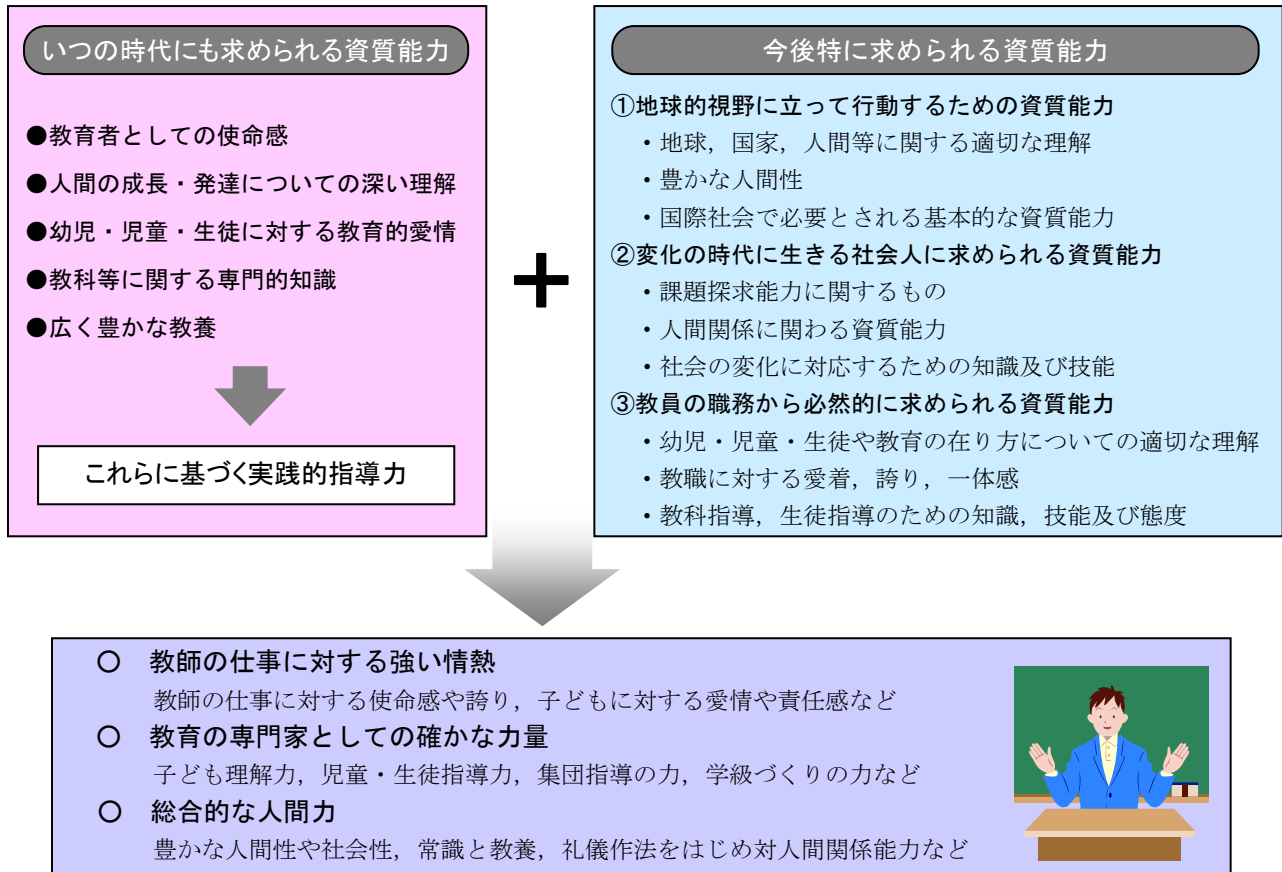
< 3 > 教師力向上のための具体的な指導・支援編



(1) 教師としての心得

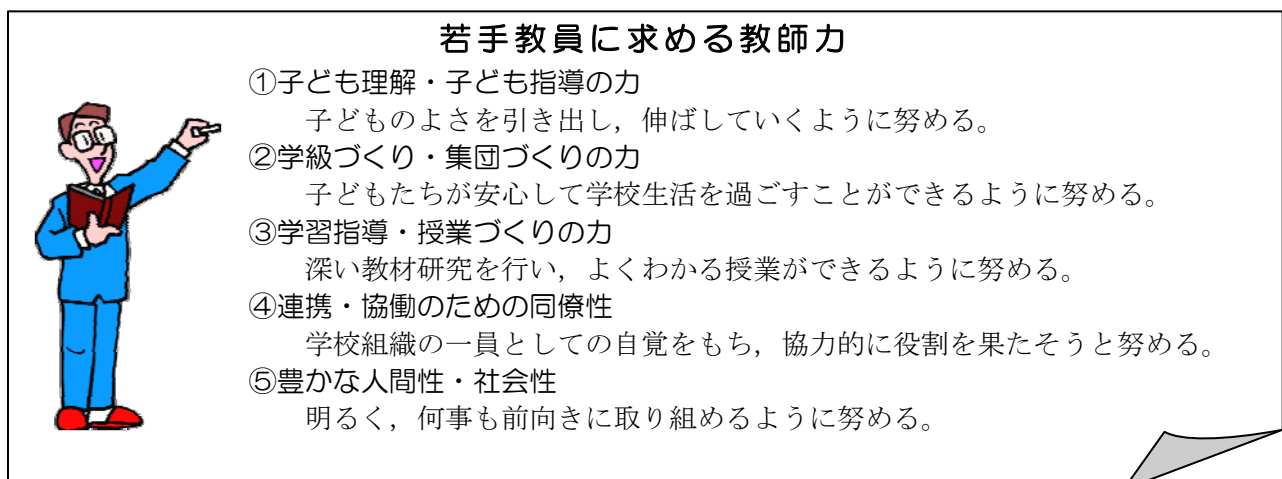
① めざす教師像とは？

「教育は人なり」といわれるように、学校教育を充実させるためには、教員の資質能力を向上・育成していく必要があります。文部科学省は、教員に求められる資質能力を以下のように示しています。



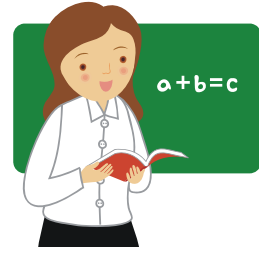
文部科学省『魅力ある教員を求めて』より

これらのことから、教師は、「集団指導・教科指導の専門家」「よりよい対人関係を築く社会人」「子どもの模範・憧れとなる大人」「学び続ける知識人」として、努力を続けていかなければなりません。子どもとともに学び、成長する“人間教師”としての姿勢をもち続けることが大切なのです。中でも、若手教員は、次のような教師力（教師の資質能力）が必要になると考えます。



② 教師の主な仕事は？

私たち公立学校の教育職員は、地方公務員としての身分を有し、教育という職務を通じて国民全体に奉仕する公務員、つまり、教育公務員です。教師は、教室での授業だけでなく様々な仕事をしています。職務内容は、学校種や校務分掌によって違います。



参考：文部科学省『教員をめざそう!』

教科指導等

●指導計画の作成

各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの領域について、指導計画を作成する。目標（子どもに付けたい力）や学習活動、評価の方法なども決めておく。

●教材研究・授業研究

各教科等について、教科書や副教材を研究し、授業の準備を行う。必要があれば、フィールドワークも行う。また、ほかの先生の授業を見て、自らの授業を改善する。

●学習評価

観察、レポート、テストなど、多様な方法による評価を行う。評価は、成績を付けるためだけに行うのではなく、授業の改善につなげることを心掛ける。（指導と評価の一体化）

●授業

授業計画を踏まえながら、子どもたちにとってわかりやすく楽しい授業を行う。子どもの反応を見ながら、子どもたちが主体的に学習を進められるようにする。

学級経営・生徒指導

- 朝・帰りの会やホームルームの実施
- 面接等の方法で、子ども一人一人の様子を把握
- 問題行動への対処
- クラスの活動記録の作成
- 学級通信の作成

進路指導・キャリア教育

- 進路相談
- 進路の情報の収集、整理
- 総合的な学習の時間や学校行事などにおける職場体験・インターンシップ等の実施

部活動

- 部活動の指導
- 試合、コンクール等の連絡調整・引率

校務分掌

- 校務分掌の位置付けや内容を把握
- 年間を見通した計画
- 学校行事などの企画・立案・実施

研修

教育公務員特例法には、「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」と示されています。

- 校内研修：当面する課題の解決や、教師としての資質を高めるための実践的研究が進められる。
- 校外研修：学校外において、様々な目的、内容の各種研修会や講習会が行われる。
- 自己研修：研究会活動や学会などに参加する、フィールドワークに行くなど、自主的に進めることができる。

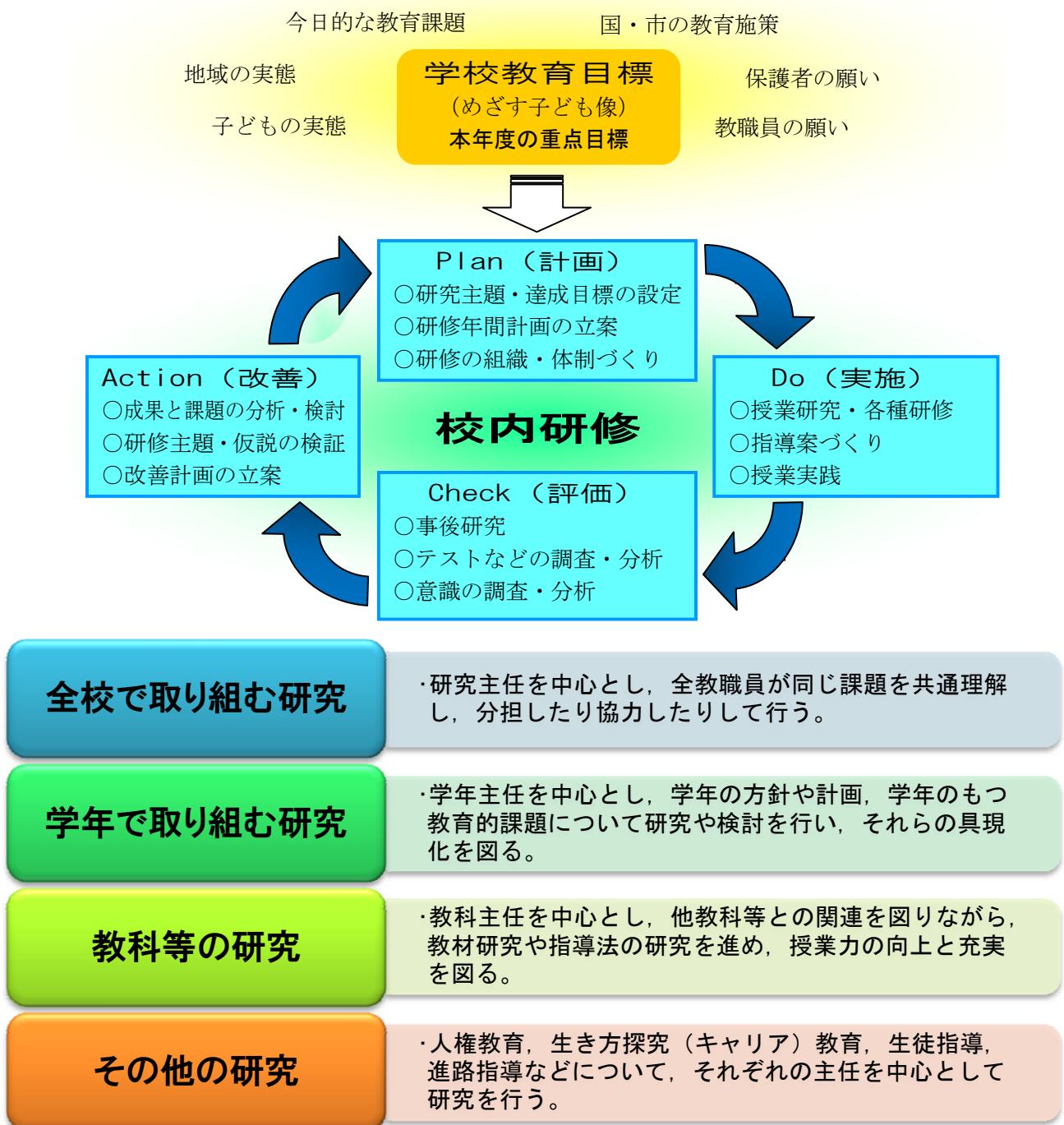
③ 教師力のスキルアップを目指すためには？

学校教育の担い手である教職員の活動は、子どもたちの成長に直接関わるものであり、とりわけ、その人格形成に大きな影響を及ぼすものです。このことを謙虚に受け止め、教員は、教師としての職責の重さを自覚し、研修の機会を積極的に求めて、主体的に研修に努めることが大切です。

◆◇ 校内での研修 ◇◆

校内研修とは、学校の課題の解決や教員の資質能力の向上を目指して、学校内で計画的・組織的に取り組む研修活動のことです。それぞれの学校の実態・課題に基づく学校教育目標を具現化する形で行われ、共通の目標達成に向けて相互に啓発しながら協働していこうとする意識を高めていくことができます。

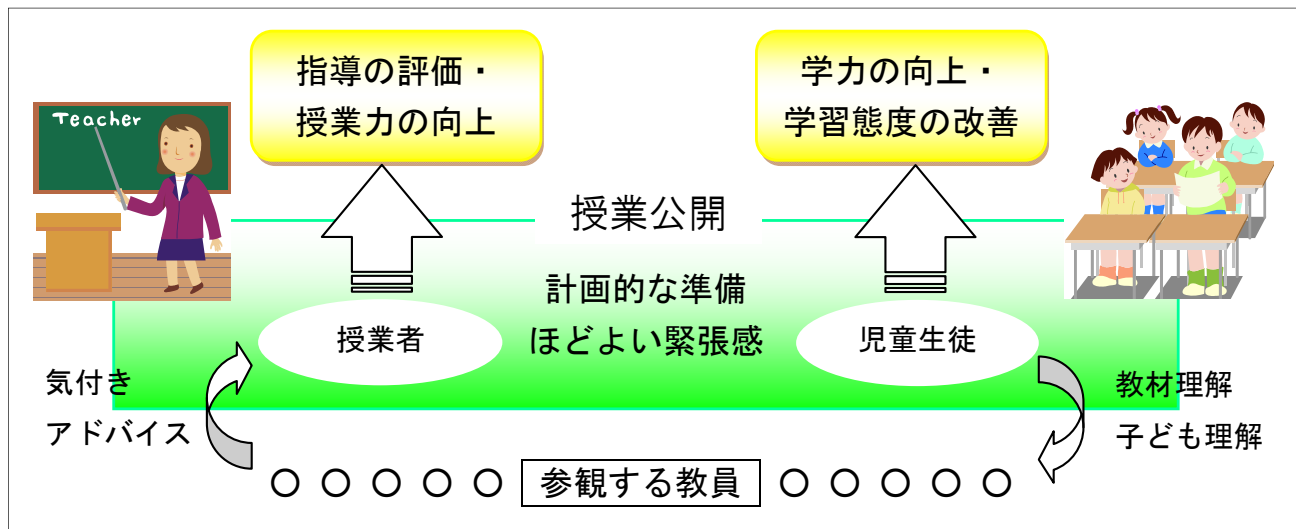
【校内研修の進め方（例）】





校内研修の中心となるのは、「授業研究」です。公開される授業を参観することは、先輩教員の指導技術や子どもの反応を実際に見ることができ、参考になります。一方、授業者となって研究を行うことは、直接アドバイスがもらえ、授業力の向上を図る上で大変効果があります。

【授業公開の効果】



「授業研究」は、公開される授業の時間だけでなく、事前の検討会や事後の振り返りを行うことによって、更に効果が増します。「授業者に任せっぱなし」「授業をやりっぱなし」とならないよう、校内の教員がともにスキルアップできる場の設定を工夫することが、「役に立った」「研究をして良かった」という有用感・満足感につながります。

◆◆ 校外での研修 ◆◆

校外での研修の場として行われている各種研修講座や講習会は、その主催する団体や目的によって、その時期、場所、内容、参加申込の手続き、サービスの扱い等に違いがあります。（サービスとは、公務員が業務に服する場合において守らなければならない義務ないし規律のことです。）

当センターでは、専門的な知識・技能や先進的な情報を学ぶことができるように、また、多くの人との関わりの中で情報交換や意見交換ができるように、様々な研修が企画されています。



校外での研修に関する情報を集め、積極的に参加しましょう。また、参加後は、研修資料を回覧したり、学んできたことの校内での伝達研修を行ったりするなどして、学びを校内での共有財産にしていきましょう。

◆◆ 自己研修 ◆◆

学校全体や教科等の部会で組織的に行う研修と異なり、時間や場所等の制約も少なく、自主的に行うことのできる研修です。自己研修の内容については、教科等に関わる教材研究や指導方法、評価をはじめ、学級経営、特別活動、校務分掌に関わるものなど多様です。



教職員の自主的な研究団体である、京都市小・中学校教育研究会の所属の研究会に参加すると、専門的な実践力を身に付けることができます。得意分野を更に伸ばし、苦手分野を克服できるようにしましょう。

総合教育センターは先生たちの応援団です！

カリキュラム開発 支援センター

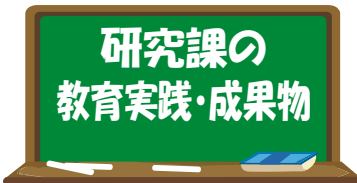


当センター3階東側にあり、教育図書や研修用ビデオ、教育雑誌、小学校英語教材（ユニットBOX・大型絵本・パペットなど）や学習指導案が多数配架されています。また、大型プリンターやカラーコピー機も設置されており、目的に応じた教材づくりもできます。更に、教材研究や授業づくりでお困りの際には、経験豊かな専門主事の先生方からアドバイスをもらうことができます。

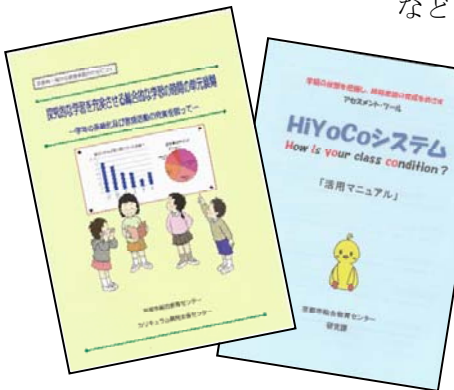


【開館時間】 平日…9時～21時(第2・4木曜日は17時15分まで) 土曜日…9時～17時

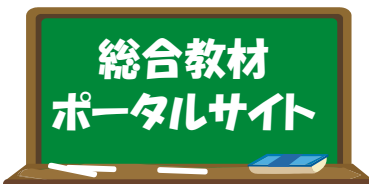
研究課の 教育実践・成果物



当センター3階西側にある研究課では、関係課や学校現場と連携し、実践に活かすことができる研究を進めています。Webサイトには、研究紀要をはじめ、成果物である指導計画案、ワークシート、支援例集、校内研修の進め方例、研究内容を簡単にわかりやすくまとめたブックレットなど、日々の授業や校内研修ですぐに活用できる資料を掲載しています。

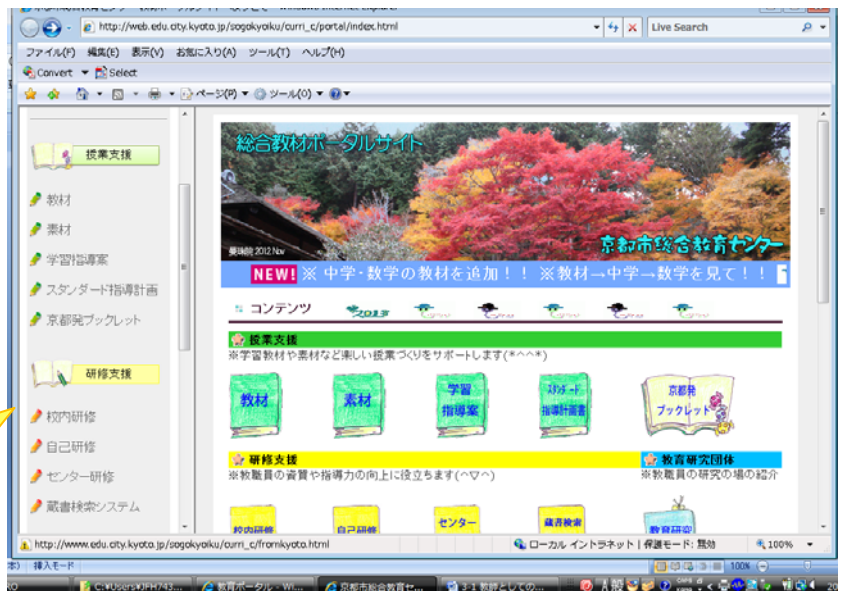


総合教材 ポータルサイト



「総合教材ポータルサイト」には、自作の優れた教材やグループ研の成果物などの、教室で活用しやすいコンテンツが集約されています。

先輩の先生方が作った学習指導案や授業で使った教材がダウンロードできるので、授業づくりに役立ちます。



(2) 集団づくり・学級づくり

集団は、子どもの成長に大きな影響を及ぼします。全ての子どもは学級という集団の中で学校生活を過ごしており、教育活動の大部分は、学級で行われます。また、児童会・生徒会活動や部活動などの学級以外の集団で活動することもあります。したがって、お互いを認め合い、高め合うことができる望ましい人間関係を育てることが、社会性を身に付ける上でも大切です。そのためには、どのような集団・学級にしたいかという目標の設定が必要となります。

① 目標の設定

学級目標は、1年間、その学級が目指す方向を示すものです。また、学級に所属する一人一人の子どもをつなぐものでもあります。学校教育目標に基づき、「子どもの思い」と「先生の願い」を具現化する目標を設定しましょう。そして、子ども一人一人が自分の存在価値を知り、問題に気付き、解決法を考え、みんなで解決することができる集団づくり・学級づくりを進めましょう。

② ルールとマナー

学級は、自由で温かな雰囲気があると同時に、集団として規律があり、快適に安心して集団生活を送ることができる落ち着いた学級風土をつくるのが大切です。先生が、子どもたちに身に付けてほしいことを明確に打ち出すことも必要です。そこで、よりよい人間関係を育み、望ましい学級集団をつくるためのルールやマナーを子どもと確認し、自分たちの生活が心地よくなったことを子どもが実感できるようにしましょう。

<ルール（守るべき規律）>

(例) 時間や時刻、筆箱の中身、
人のものをだまっとらない、
休み時間の運動場の使い方、
雨の日の遊び、 など

<マナー（集団生活を送る上で 守った方がよい行動や態度）>

(例) 聞こえる声で挨拶・返事をする、
一生懸命取り組んでいる友だちを応援する、
人が話しているときは黙る、 など

③ 環境の整備

子どもが落ち着いて学習に取り組んだり、安心感や所属感をもって活動したりするためには、環境を整えることが大切です。

<教室環境>

- ・机や椅子の整頓
- ・教卓の整頓
- ・教材教具や荷物の整理
- ・掲示物の整理
- ・教室や廊下の美化
など

落ち着き感
安心感
所属感

<言語環境>

- ・相手を尊重した呼名
- ・時と場に応じた言葉づかい
- ・個人情報やプライバシーへの配慮
- ・教師自身の言語感覚の見直し
など

(3) 授業づくり

授業は、教育実践の要となるものです。「学ぶことは楽しい」「いま学んでいることは、実生活・実社会で役に立つ」ということを子ども自身が実感できる授業をつくるのが大切です。

① 授業の立案

「単元・教材（題材）観」「児童・生徒観」「指導観」といった授業観を明らかにした上で、「本単元・本時の目標」「授業の流れ」「予想される子どものつまずき」「指導の手だて」「評価（場面と方法）」などについて、具体的に授業の展開を構想し、立案します。

<学習指導案の意義は…？>

- ・目標の達成を目指すための授業の進め方、内容・方法などを確認する。
- ・授業研究や研究協議の資料として活用するため、授業者の意図を参観者にわかりやすく示し、授業改善に結び付ける。

<応用編> 板書指導案
(ノートの見開きを使って作成する)

◎授業展開が視覚的にわかります！

◎発問（補助発問）や支援ポイントが確認できます！

◎必要な準備物（サイズ・数など）が具体的に確認できます！

5年道徳：社会のルールを守る
資料名『何気なくしていること』
〈ねらい〉「何気なくしていること」を虫たちの行為から振り返り、同じ行動でも良いときと悪いときがあることに気付く活動を通して、社会のルールやマナーを守ろうとする判断力を養う。

〈展開〉
発問①「どこがいけないのでしょうか？」
発問②「こちらの虫の行動はどうでしょう？」
(補)「このような虫が増えたら、社会はどうなるでしょう？」
発問③「時と場所を考えて行動しなければいけないのは、どんな場合でしょう？」
まとめ…標語やミニポスターを各自で作成する。

(標語やポスター)

ルールやマナーの大切さ

③【社会生活の中で・・・】

挿絵

挿絵

② 電車内でジャンケンをしている虫

① ポイ捨てをしている虫

何気なくしていること

九月九日（金）

〈準備物〉
挿絵の拡大コピー、標語カード（A5 サイズ）、道徳ノート（振り返り用）

※ 参考：「京都市立小学校教育課程 指導計画 道徳」 p.5-道-22

② 発問・指示

<発問のワザ>

- 主となる発問は、事前に文章化を！（フラッシュカードなどの活用）
- 子どもの反応によって発問が変わったり補助発問が必要になったりすることもあるため、複線型で発問を考えて！
- 発問は、全員を集中させてから！

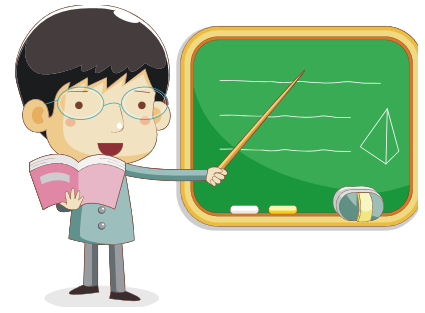
<指示のワザ>

- 短く！わかりやすく！（できるだけ、1センテンスの中には一つの指示）
- 必要に応じて、文で示したり図示したりするなどの視覚化を！
- モデルを示したり、完成品を提示したりして！

③ 板書・ノート指導

<板書の意義は…？>

- ・学習の過程がわかり，思考を整理する場になる
- ・みんなの考えをもち寄り，みんなで考える場になる
- ・学習のポイントがはっきりわかる



<板書のワザ>

- 「本時の学習のめあて」や「学習課題・学習問題」は，大きくセンターに！
- 学習の流れがわかるように左から右へ！（縦書きの場合は，右から左へ）
- 色チョークやフラッシュカードを効果的に使って，ポイントを明確に！
- 文字量が多くなりすぎないように，要点だけを簡潔に！
- 矢印や囲みを使って，関連付けや仲間分けがひとめでわかるように！
- 子どもの考えや意見を取り入れて！

【板書例】

1時間の学習の流れがわかると，見通しをもって主体的に取り組むことができます。

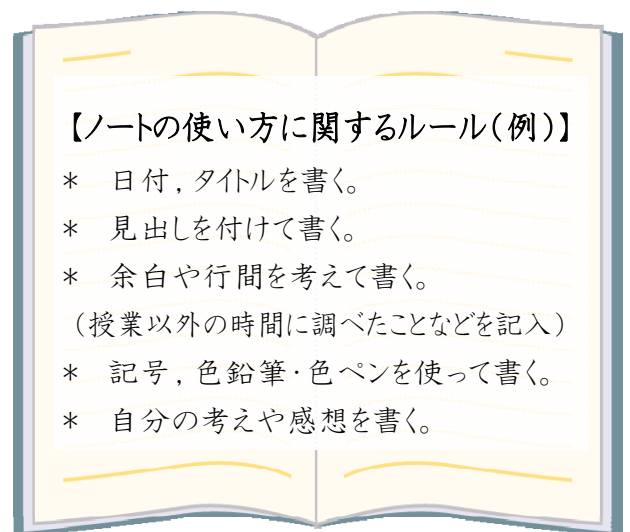
問題・資料をどのように提示するのか，吟味しましょう。

本時の学習のめあては，全員で確認するとともに，ノートにも書かせるようにしましょう。

学習のまとめは，できるだけ児童生徒の言葉から引き出すようにしましょう。

<ノート指導のワザ>

- 年度はじめに，ノートの使い方について指導を！
- できるだけ，ノートの先頭から書き始めることができるように！（1時間の学習は見開き2ページ分にまとめるなど）
- 「話を聞くときは聞く。ノートは，指示が出てから書く」といった約束を！
- 子どもが後でノートを見たときに，学習の足跡が自分でわかるように！



④ 授業記録・振り返り

授業の記録を文字・映像・音声などで記録し，それを見直し振り返ってみましょう。成果と課題が明らかになり，次の授業改善に活かすことができます。

(4) 子どもとの信頼関係づくり

「子ども一人一人を徹底的に大切にすること」という理念をもって子どもたちに接することで、おのずと信頼関係は築かれます。

① 話し方・聞き方のポイント

先生の話し方一つで、子どもの表情が変わり、やる気や集中力が生まれます。「ゆっくり」「はっきり」「ていねいに」話すよう、いつも心がけましょう。また、話を聞くときは、子どもが安心して話すことができるよう、「笑顔で」「共感的に」聞くようにしましょう。真剣に耳を傾け、寄り添うことが大切です。

先生の話し方・聞き方は、子どもたちの手本となることを忘れないようにしましょう。

② ほめ方・叱り方のポイント

子どもとのよりよい信頼関係を築く上で、「ほめ方」「叱り方」はとても重要なカギとなります。ほめるときも叱るときも、「いつ」「どんな場面で」といったタイミングと場を見極め、誠意と愛情をもって指導することが大切です。

【いつ？】そのときに、少し時間をおいた後に、放課後に、翌日に、・・・

【どの場面？】個別に、相手と一緒に、全体の前で、保護者に、・・・

<ほめ方のポイント>

- *本気で「すごい！」とたっぷり認める
…長所、努力や成長を、具体的なことを取り上げて。
- *ほめ方の表現を工夫する
…表情・テンション・ジェスチャーなど。
また、声かけやコメント記入などで。

<叱り方のポイント>

- *要点を「スパッ」と短く指摘する
…危険なこと、人を傷つける言葉や暴力については、厳しい態度で。
- *方向性を「サラッ」と示す
…「ダメ！」と禁止するだけでなく、具体的な指示を。

③ コミュニケーションのポイント

子どもの良さや能力を理解し、信頼関係を築くためには、コミュニケーションが必要です。始業前、授業中、休み時間、放課後、個別面談など、様々な機会を捉えて、子ども理解を図るようにしましょう。特に、「表情が暗い」「元気がない」「いつもと様子が違う」といった、気になる子どもに対しては、すぐにそばにいてコミュニケーションを図ることが大切です。しかし、「友達先生」ではいけません。状況の判断が的確で、「ダメなことはダメ」「これだけは譲れない」といった、確信が揺るがない先生でなければ、子どもとの信頼関係を築くことができないからです。

- 【ポイント1】子どもの名前を呼んで挨拶をしよう
- 【ポイント2】子どもと一緒に遊んだり、作業をしたりしよう
- 【ポイント3】積極的に話しかけよう
- 【ポイント4】共通の話題をもとう
- 【ポイント5】先生自身が自己開示しよう（失敗談を話すなど）




(5) 家庭・地域社会との関係づくり

子どもの生活の場は、学校だけではありません。学校と家庭・地域社会が「共に子どもを育てていく」という姿勢が重要です。そこで、保護者や地域の方の考えや願いをしっかりと受けとめ、相互理解を図り、連携に努めなければなりません。

① 学級通信・学年通信

<通信の意義は…?>

- ・ 予定や提出物等の情報を伝える
- ・ 子どもの様子や成長を紹介する
- ・ 先生の思いや価値観を伝える
- ・ 学校での子どもの学びや成長を、家庭や地域での話題としてもらう




- 誤字脱字・誤解を与える表現はないか？
- 見出しや構成を工夫してわかりやすい表現になっているか？
- 全ての子どもが平等に扱われているか？
- 人権やプライバシーの保護に配慮しているか？
- 配布前に管理職等のチェックをうけているか？

② 保護者懇談会

<懇談会の意義は…?>

- ・ 学校や学年・学級の教育方針を理解してもらう
- ・ 保護者同士の情報・意見交換の場となる
- ・ 先生と保護者が、情報を共有できる




- アイスブレイキングなどを活用して、和やかな雰囲気始める
- 保護者の関心に合わせたテーマを話題に取り上げる(資料も準備)
- 欠席された保護者にも、準備した資料を配布して、理解を促す

※アイスブレイキング…コミュニケーション促進を目的に行う簡単なゲームやワークのこと

③ 家庭訪問(定例)

<家庭訪問の意義は…?>

- ・ 子どもの家庭・地域環境、保護者の願いや不安、学校外での子どもの様子を知る
- ・ 学校での子どもの様子を知らせ、今後の指導方針を共通理解する




- 訪問日時は家庭の事情に配慮し、時間を守る
- 家庭生活や保護者を軽率に批判したり、プライバシーを侵害したりしない
- 訪問後は記録をとり、事後の指導に役立てる
- 要望や苦情については、誠意をもって対応する

※その他、必要に応じて行う家庭訪問(随時)での連携も大切にしましょう。

※こまめに、学年主任・管理職に報告・連絡・相談をしましょう。

④ 地域との連携

地域は、豊かな人間性・社会性を育む絶好の場です。また、子どもに、自分たちが生活している地域の良さを実感させることは、学校や地域社会が果たす大きな役割であると考えます。そこで、子どもたちが安心して過ごすことができる安全で魅力的な地域づくりを、学校と地域社会が連携を図りながら進めていく必要があります。



- ゲストティーチャーとして学習に関わっていただける地域の方の情報収集を行っておく
- 職場体験や各種体験活動の場を提供していただける場合は、事前の打合せを十分に行い、教育活動のねらいや段取りを共通理解しておく